

1979年に来日した第2750地区の青少年交換学生等は、一年間の有意義な勉学生活や、多くのロータリーの諸行事に参加する事によって非常に親しくなりましたが、その後はそれぞれの生活進路に従って別れました。

東京南RCでは、オーストラリア(リートンRC)からBrowyn Parsons (旧姓 Pascoe) (愛称ブロン)をあづかりましたが、2009年4月に結婚25周年の銀婚旅行をして当クラブを再訪問したり世界諸国を旅行して、30年前と一緒に留学した元学生達によびかけて再会合を計画し、8月にシドニーで以下の10人が集まったそうです。当日は東京で30年前に行われた「着物姿の会」の写真と同じ順序に並んで現在の写真をとって送ってくれました。

左から右へ諸元学生の氏名(旧姓)、スポンサー・クラブ — ホスト・クラブを記します。

- Mark Broekman — club Bowen, Qld から東京向島へ
- Deborah Ross (旧姓 Smith) — club Blacktown, NSW から東京世田谷へ
- Judith Malo (旧姓 Barrett) — club Penrith, NSW から東京日本橋へ
- Peter Downie — club St Ives, NSW から東京品川へ
- Bronwyn Parsons (旧姓 Pascoe) — club Leeton, NSW から東京南へ
- Meredith Atilemile (旧姓 Schroder) — club Canberra North, ACT から東京目黒へ
- Ross Rowbury — club Melbourne, Vic から東京八王子へ
- Melody Clark — club Yakima, WA, USA から東京浅草飯田橋へ
- Margaret Brierley (旧姓 Zinga) — club Lindfield, NSW から東京府中へ
- Joanne Wood — club Pennant Hills, NSW から東京神田へ

彼(女)等は日本での留学経験から、(1)自信と精神的な成長を得た事、(2)海外の友人が出来た事、(3)異国文化への理解が深まった事、(4)新しい言語の習得、(5)その後にはうける教育やキャリアの基礎の充実、等の利点を得た事を述べ合ってこの制度に深く感謝しており、次回はいつの日か東京での再会を計画しているそうです。

外国からの留学生のホストファミリーをする事は、会員や特に奥様への負担が大きいと思いますが、帰国後にこの様にいつまでも感謝の便りをもたらしますと、自らが国際理解の一助になった事にやり甲斐があったと感じるものであり、我々ロータリアンもこの制度の意義を再確認しなければならないと思います。



30年前の「着物姿の会」



30年後のシドニーでの再会合